



AED 研修を実施しました

6月11日(金)に全教職員が参加してAED研修を実施しました。本園の養護教諭、石山先生に講師を務めてもらいました。

日本では、心臓突然死で年間79,400人、1日あたりで計算すると220人が命を失っていることとなります(総務省消防庁発表 令和元年版 救急救助の現況)。

心臓突然死の多くの原因が心室細動で、心臓の筋肉がけいれんしたような状態になります。心室細動を起こすと心臓のポンプ機能が失われるため、全身へ血液を送り出せなくなります。全身へ血液が送られないと酸素が運ばれないという状態になりますので、一刻も早く細動を取り除く必要があります。その医療機器がAED(自動体外式除細動器)で、これを使って、一般人でも電気ショックを行って人の命を救うことができるようになりました。

突然の心肺停止を起こした人の救命の可能性は、時間の経過とともに低下していきませんが、通報後に救急車が到着するまでの時間に、その場に居合わせた人が救命処置(心肺蘇生とAED)を行うことで救命の可能性が高くなってきます。

講師の石山先生から注意点や手順などを実演を交えて指導してもらい、以下の点に沿って全教職員が体験しました。毎年、実施していますが、忘れていたこともありましたので、非常時に備えて救命講習の必要性を感じました。

- ①反応があるか確認：大きな声、肩を強く叩く…
- ②周りの人に119番通報とAED手配の指示(依頼)
- ③呼吸を確認：胸と腹部の動きを見て
- ④(正常な呼吸がない)心肺蘇生

直ちに心臓マッサージ(胸骨圧迫)を行う

※大人、小児、幼児の模型を使って体験しました。

- ⑤AEDが到着したら、音声ガイダンスに指示に従って電気ショックを与えます。→直ちに胸骨圧迫を行う。

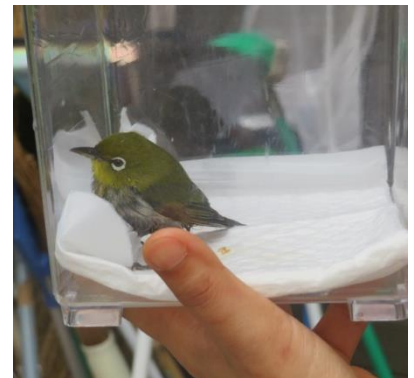
野鳥にも優しい幼稚園♪

先日、保育の準備をしていた年少の先生たちが、玄関横のビワの木の下で、クチバシから出血して横たわっていたメジロを発見!

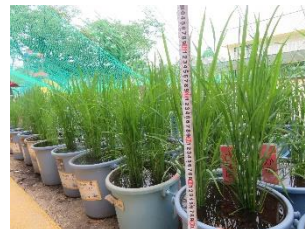
クチバシを

怪我していたので、餌を食べられない状態なら命に関わります。色々考えた挙句、教頭先生が動物病院に連れていくことになりました。病院に入院をしていましたが、昨日、元気な姿で退院してきました(写真)。早速、ビワの木の下で放してあげると、元気よく飛び立ち、ビワの実を突いてから「チーチー」と甲高い声で地鳴きして響流の森へと姿を消しました。

ヤマガラに続き、今回のメジロ。園児が一番ですが、野鳥にも優しい筑女幼稚園です。



生長しています🌱



年長のバケツ稲は草丈が50cm位に生長していました(写真:左上)。ちょっとの間にグ〜ンと伸びたようです。

年中さんのミニトマトは実がなっていました(写真:右上)。枝豆も実がついていましたが、数が少ないようです。

裏庭に植えている姫リンゴの木には、30~40個の実がなっていました(写真:右)

ブルーベリーの木にも実がなっていました。

